

眼

窩

能村 研三

谷中清水町

冬帝といふ暴帝もゐるらしき

吐く息と床擦る音や弓始

端正な孟宗竹の節淑気

淑気満つ拍子合なるシテ柱

能面の小さき眼窩雪の夜

線描のごとし冬木の空眩し

探梅行つと荒海を見てしまふ

睦月はや山小刻みに目覚めゐる

知りすぎしことの寂しさ魚は氷に

蒼帝をまつ木の力地の力

今年の「沖」の新年会に出席いただいた、愛知支部長の大久保志遠さんから、翌日先師登四郎の生まれた町である谷中清水町を訪ねたいことのお申し出があり、谷中清水町のことを教えてほしいとのこと。といても、私には登四郎の戸籍に、谷中清水一番地で生まれたと記されていることだけしかわからず、折角の質問に答えることができなかった。

登四郎の随筆集『鳩の手帖』の「ふるさと」と題した一文に、この清水町のことと記されていた。

「私が生まれたのは谷中清水町で、青年期まで過ごしたのは田端であるが、どちらかといえば幼児の記憶しかない谷中清水町という町の方が好きだ。谷中という下町であるが、清水町という町は昔は日本画壇の巨匠が多く住んでいて山の手というベッキ屋敷町だった。今はだいたいぶ変わってしまったが、六十数年の歳月の変貌は当然と思ってしまう、別に失望することはない。」

私も谷中の菩提寺延壽寺に墓参りに行く時は、必ず通る道なので、その痕跡を辿ってみたいと思っている

が、「清水町」の名前は地名として現在は無く、公園の名前に「清水町公園」と記されているのと、坂道の名前に「清水坂」という名が残っているだけである。公園にはかつての清水町の由来が書いてあった。

「この地は、東叡山寛永寺創建後は寛永寺領地であったが、寛永十年（1633）松平伊豆守信綱が拝領した。代々松平の姓を名乗っていたが、信古（のぶひさ）の代になって大河内に改姓した。大河内信古は、豊橋藩主で七万石を領していた。明治五年（1872）、大河内家屋敷地を一町として起立し、町名を谷中清水町と命名した。町名の由来は、護国院前に明治前まであった清水門にちなむという。清水門の名称の由来については、この地に清水が湧いていたためとされている。」

現在は「池之端四丁目」で、この坂を下りると上野高校、上野動物園、不忍池、森鷗外ゆかりの宿などがある。何かの機会にまたこの界限を「沖」の方々と吟行して歩きたいと思っている。

能村 研三